

2021年度
入学試験問題
(A日程)

国語

注意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/6から6/6まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

「次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。」

「やっぱりおとうさん、あたしのこと覚えてないよね」

*ランボルギーニをテーブルに置き、君枝は言った。

「小学四年生のときにね、修学旅行に行ってるお兄ちゃんのプラモデルを、うっかり落としてこわしちゃったことがあって。白いスカイラインだったな。ミラーが取れてボンネットにひびが入って、あたし、まっさおになって木下プラモデルに¹かけ込んだの」

「だっておまえ、千葉に住んでたんじゃないのか」

君枝は首をすくめる。

「うん、五年生からね。それまでは緑地公園の裏の団地にいたんだ。ハタチ過ぎてから一家で戻ってきた感じ」

「知らなかった」

「言わなかった」

イヒヒと歯を見せたあと、君枝は話に戻った。

「プラモデルを新しく買うお金は持ってないし、なんとか直してもらえないかなと思ってどきどきしながらお店に入ったら、隅っこ作業台に店主のオヤジがいて」

「ワシか」

「そう。すごいセイミツ²な客船を作っていた。あたしが近づいてもちっとも気がつかないで、真剣な顔で。ちっちゃいちっちゃいパーツがいくつも台の上にあって、オヤジがそれをなんの迷いもなくどんどんつけていくの。パーツがまるで、勝手に船体に吸いついていくみたいだった。オヤジの体全体が光って見えた。オーラ³っていうんだろね、ああいうの。それであたし、思ったんだ」

君枝はひと呼吸おき、つぶやくように言った。

「神だ、って」

気恥ずかしさでいっぱいになる。君枝は興奮気味に話し続けた。

「それで、五回くらいすみませんすみませんって声かけて、やっと気がついてもらえて、わけを話して。そしたらオヤジがスカイラインを手⁴に取ってちろっと見たあと、『明日取りに来い』って、それだけ」

そんな女の子がいたのだろうか。言われてみればそんなことがあった気もするが、覚えていない。

「次の日、学校が終わってからすっ飛んでいったらさ、ちゃんと直ってるの。ホントに感動した。ひびなんて、まったくわからないの。おまけにおとうさん、修理代も取らなかつたじゃない」

「ミラーが取れたくらいなら接着剤でつけられすむ話だし、ボンネットのひびは⁵パテで埋めて表面を⁶ケンマすればいい。白い塗料の品番はだいたい見当がつくから、再塗装で手直しもそう難しいことじゃないだろ。そんなんで小学生から金なんかとるか」

「おとうさんには簡単なことだったかもしれないけど、あたしにとっては人智⁷超えてたんだよ。怒られるからお兄ちゃんには隠しておこうと思つたのに、あんまり感動して正直に話しちゃった」

ワシは吹き出しそうになった。人智を超えるだって。さっきヨシ坊に聞いたような話だ。

「そのあとすぐに引越したから、お店には行けなくなっちゃったけど。でもそれが、あたしと模型の運命の出会い」

「運命？」

君枝は写真を一枚取り出した。洋館模型の隣で、今より若い君枝が賞状を持っている。

「これ……」

「すごいでしょ」

ドールハウスコンテスト 優勝 水沢君枝。賞状にはそう書かれていた。

「最初は真似して船だの飛行機だの作ってたんだ。そこから高校のときドールハウスに目覚めてね。もう、あたしの人生はドールハウスと一緒に歩んできたようなもんだよ。未央⁸が生まれてからしばらくガマン⁹してたんだけど、その抑圧がいいほうに爆発して、授乳しながら決めたの。近い将来、絶対にドールハウスの店持つんだって」

④ 君枝は遠くにまなざしを向けた。強い熱意がそこに見てとれる。

「今働いている雑貨屋の人たちも応援してくれてるんだ。少し前からドールハウスのサンプルを作らせてもらったり、お店に置いてもらった¹⁰りしているの。資金貯めだって、もうすぐ目標金額に届くよ。近くにいい物件も見つけたし、準備しながらもう少しのあいだ雑貨屋で経営のノウハウ学んで、春にはオープンできると思う」

すごいな。ワシは心を揺さぶられ君枝に見とれた。店を持つのか、こいつも。君枝はランボルギーニを持ち上げ、再びワシに差し出した。

「おとうさん、あたしとやろう。もう一度、お店やろう」

⑤ 息が止まるかと思つた。君枝は身を乗り出す。

「もちろんおとうさんはプラモデルを売るので。ううん、隅っこで作ってあげればいいよ。最高のプロモーションになるから」
ときめくような話だった。でも、そのときめきはワシを¹¹怖気づかせる。

「プラモデルなんて、もう流行らないぞ」

「あたしたちで流行らせればいい。ワークショップやつたりするのも楽しそうじゃん。親子で来てもらったりさ。ドールハウスとプラモデルをメインにした、模型の専門店だよ」

そんな……そんな夢みたいなのが、本当にあるのか。一度にいろんなことがありすぎて、言葉が出ない。そんなワシを見て君枝がしおらしく言った。

「ずっと黙っててごめんね。あたしだって、まちコンで知り合った弘人ひろとさんがあのオヤジの息子なんてびっくりしたよ。木下ってそんなに珍しい苗字ななうじじゃないし、弘人さんも何も言わないんだもの。結婚の挨拶に行く前日になってやっとお店のこと聞かされて、驚いたのなんのって」「なんで今まで……」

君枝はぐっと息をつまらせ、言いよんだ。

「……弘人さんが、言うなって」

そうだろうな、と腑ふに落ちる。仕方ない。そんな武勇伝ぶゆうでん、弘人にはおもしろくないだろうし、ワシを喜ばせたくなかったんだろう。

「……弘人さんが、言うなって」

「それはどうかな。あたしも正直、意外だったんだけど、弘人さんが転勤になってあたしが未央とこの家に住みたいって言ったときね、弘人さん、すごく喜んだんだよ。『ありがとう、安心した。よろしく頼む』って、なんだか泣いちゃいそうな顔してね。それ以降はバタツとなんにも言わなくなつて、また前みたいに知らんぷりしてるけどさ。ほんと、木下家の人たちってみんな面倒くさい」

弘人が……弘人がそんなことを言ったのか。君枝にこり押しされて、いやいや承知したのかと思っていた。ありがとうって。安心したって。本当に？

「弘人さんはプラモデルが嫌いなんじゃなくて、シット5してただけなんだよ。小さいころおとうさんから作業中に来るなとか触るなとか言われたことがあって、悲しかったんだって。自分はプラモデルほど愛されてないって。おとうさんへの態度も、大好きの裏返しだったんだと思うよ」

ああ、それなら思いあたる。店を始めたばかりのころだ。作業していつっかりラッカーを床にぶちまけたとき、弘人がやってきた。シンナー臭のきついところで弘人が気分悪くなったらいけないと、来るなど言った。塗装中のプラモデルに手を伸ばした弘人にも、触るなど言った。塗料が手につくとヤツカイだからだ。そういうことが、一度や二度ではなかったかもしれない。

そうか、それで弘人は店に寄りつかなくなったのか。プラモデルを見るとイヤな顔をするようになったのか。弘人を思っていたからこそだったのに、プラモデルの良さも、父親としての愛情も、ちゃんと伝えられなかった。

「やっぱワシは……、種まきはうまくできなかったな。キンセンカも枯らしてしまっただし」

君枝が軽く首を横に振る。

「種って本来は、勝手に飛んでいつて親の知らないところで勝手に咲くもんでしよう。あたしだけじゃない、きっとあの店に来てた子どもも大人も、今ごろどこかで好きなように花を咲かせてるよ」

ワシの手を力強く握り、君枝は言った。

「あの店でずっと、おとうさんは種まきしてたんだよ、いっぱい」 「中略」

ワシの種が君枝の中で育ち、今度は誰かが君枝から種を受け取るのだろう。そんなふうには、想おもいはこちらが意図しないところで回っていくのかもしれない。ならばワシはただただ、プラモデルを愛していこう。どこかで勝手に咲く花を、知ることはなくても――。

(青山美智子『猫のお告げは樹の下で』)

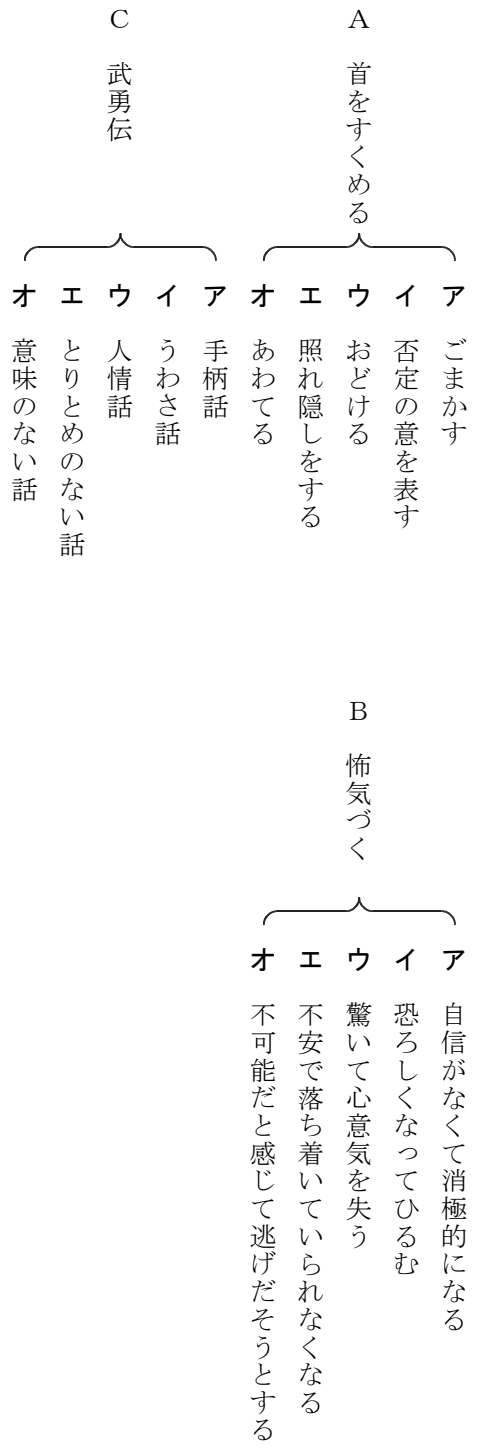
*ランボルギーニ：イタリアの車。 *パテ：すきまを埋める材料。

*ヨシ坊に聞いたような話：宮司を務めるヨシ坊が神の力について語った話。

*まちコン：地域振興を目的としたお見合いパーティー。

問一 〓線部1〜6のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 〓線部A「首をすくめる」、B「怖気づか(怖気づく)」、C「武勇伝」の本文中の意味として適当なものをそれぞれの語群ア〜オから一つ選び、記号で答えなさい。



問三 〓線部①「ちろつと見たあと、『明日取りに来い』って、それだけ」とありますが、そのような対応をしたのはなぜですか。最も適

当なものをお次のア〜オから選び、記号で答えなさい。

- ア 女の子がかわいそうで、早く直してあげたかったから。
- イ 突然やって来て、修理を頼む女の子が邪魔だったから。
- ウ 面倒な修理ではなく、すぐに直せると判断したから。
- エ 仕事が中断されるので、早く話を終わらせたかったから。
- オ 女の子の持ってきたプラモデルに、興味がなかったから。

問四 — 線部②「吹き出しそうになった」とありますが、それはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

(句読点、記号も字数に数えます。)

問五 — 線部③「それが、あたしと模型の運命の出会い」とありますが、なぜ「運命の出会い」といえるのですか。四十字以内で説明しなさい。(句読点、記号も字数に数えます。)

問六 — 線部④「君枝は遠くにまなざしを向けた」とありますが、このときの君枝の様子を説明したものととして、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の過去をふり返りながら、夢を実現していく姿を思い描いている様子。
- イ 自分の目標を語るものの、今はまだその実現の時ではないと感じている様子。
- ウ 自分の目標を宣言することで気持ちを高め、自らを追い込んでいる様子。
- エ 自分の夢を語りながら、努力を重ねてきた過去を思い返している様子。
- オ 自分の思い描いた将来が、まもなく叶う^{かな}ことに心を奪われている様子。

問七 — 線部⑤「息が止まるかと思った」とありますが、このときの父の様子を説明したものととして、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 君枝の若さあふれる様子に魅力を感じつつも、自分の参加次第で今後のあり方を決めるという発言に言葉を失っている。
- イ 君枝にかつての自分を重ねてほほえましく思っていたところ、共同経営することを持ちかけられて喜びをかみしめている。
- ウ 君枝と共に仕事をして支えてやりたいと思ったが、かつて自分が失敗したことが頭をよぎって動揺を隠せないでいる。
- エ 夢を語る君枝にまぶしさを感じながら聞いていたが、思いがけずその夢に自分も加わってほしいと言われて驚いている。
- オ 夢を語る君枝は輝いて見えたが、自分への仕事の依頼は励ましや同情からくるもので複雑な気持ちになっている。

問八 — 線部⑥「君枝が首をかしげる」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 夫の弘人が、心の中では父を思いやっているのに、それを父に伝えるような態度を示さないことに違和感を抱いたから。
- イ 夫の弘人が、自分には父を大切に思う言葉を発しながらも、実は父に逆らっていたとわかって夫の二面性を感じたから。
- ウ 夫の弘人が、小学生の時の自分と父との模型に関わる出来事を、父に語るなど言う理由がよく理解できなかったから。
- エ 夫の弘人が、父を気にかけていることがわかっていたので、父との間に確執があるという話に疑問を感じたから。
- オ 夫の弘人が、父を心配していることを伝えなければ関係は改善しないのに、いつまでも行動しないことが不思議だったから。

問九 父は初め「種まき」とはどのようなことだと考えていましたか。それを説明した次の文の1・2にあてはまる二字の熟語を本文からそれぞれ探し、書き抜きなさい。

君枝とは違い、父は、父親としての 1 やプラモデルの魅力を、幼い息子にも分かるように 2 的に伝えることが「種まき」であると考えていた。

問十 — 線部⑦「ワシはただただ、プラモデルを愛していこう」と感じたのは、どのような思いがあったからですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が多くを語らなくても、熱い思いがあればプラモデルの魅力は受け継がれていくだろうという思い。
- イ プラモデルを愛する自分の姿に周囲の人たちが影響を受けて、前向きになれるならばそれでいいという思い。
- ウ 周りの人たちが好きなように生きていけるならば、自分の意思に関係なくプラモデルを作り続けようという思い。
- エ プラモデルの製作に没頭する姿を見せることが、周りの人たちの人生の見本となるならば幸せだという思い。
- オ 黙ってプラモデルを作る姿を見てもらうことで、いつか自分も理解してもらえる日が来るだろうという思い。

問十一 本文に描かれている父の姿として、最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 君枝の快活な性格に押されるように、殻に閉じこもって卑屈になっていた状態から次第に解放された。
- イ 息子の幼い頃の思いを君枝に教えてもらい、すれ違った親子関係を修復していきたいと感じ始めた。
- ウ 隠しごとができない君枝が本当のことを話してくれたことで、自分の勘違いに気づき恥ずかしくなった。
- エ 歯に衣着せぬ君枝の口調に戸惑いを感じつつも、自分と向き合うことができて心が穏やかになった。
- オ 夢に向かってまっすぐ進む君枝との会話の中で、自分の中にあつたわだかまりを溶かすことができた。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

遠くから自分の社会を見る、という経験のいちばん直接的な形は、異国で日本のニュースを見る、という機会です。ある朝、小さい雑貨店の前の石段に腰をおろして「午前」のバスを待っていると、新聞売りの男の子がきて「日本のことが出ているよ！」という。日本のアゲオという埼玉県の駅で、電車が一時間くらい遅れたために乗客がボウドウを起こして、駅長室の窓がたたき割られた、という報道だった。世界の中にはずいぶん気狂いじみた国々がある、という感じの扱いだっただ。ぼくはその中にいた人間だから、朝の通勤時間の五分一〇分の電車のおくれが、ビジネスマンにとつてどんなに大変なことか、よくわかる。分刻みに追われる時間に生活がかけられているという、ぼくにとつてはあたりまえであった世界が、〈遠くの狂気〉のようになぶしきなギカイなものとして、今ここでは語られている。

近代社会の基本的構造は、ビジネスです。business とは busyness、「忙しき」ということです。「忙しさ」の無限連鎖のシステムとしての「近代」のうわさ。遠い鏡に映された狂気。ぼくはその中に帰って行くのだ。

ヨーロッパの都市の中心には時計がある。都市の中心の広場には、教会があり市役所があり、そして必ず大時計がある。ヨーロッパの人たちはいつのころからか、時計を見上げながら〈近代〉を育んできた。

いつのころからか？ 一四世紀の前半、ミラノ、ボローニヤ、フィレンツェのようなイタリアの諸都市で初めて、「公共用時計」が設置された。一四世紀の後半から一五世紀にかけて、ドイツ、オランダ、スイス、フランス、ベルギー、イギリスの都市に、ほぼこの順番で大時計が設置される。人々が毎日の生活の中で、時間を計りながら生きる、という時代が始まった。時間というワクグミの中に、人間たちの生がおかれた。

③ それでもこの時代の時計は、一本針だった。「分針」というものはなかった。「分」という単位は未だ、生活に必要ななかった。ぼくたちはもう時計といえば、二本針があたりまえです。というか三本針もふつうです。

社会学の卒業生というのは、マスコミに行く人が多いのです。ぼくの同期生も、NHKや民放に行った人が多いのですが、同窓会の時に民放の人が、NHKはのんびりしていつらやましい。民放は秒単位の世界だけど、NHKは分単位だからな」と言っていました。自分たちが現代の先端的な仕事をしているのだ、という自負もあったのかもしれないが、じっさいに民放の生命はコマースシャルですが、CMは一五秒のうち終りの一秒か二秒が切れたらチメイテキ、という世界です。近代の始まりのころと比べても、生活の時間の単位は三六〇〇分の一に、細かくなっています。

メキシコのインディオにとつても大切な祭りのひとつに、「死者の日」というのがあります。一月一日から二日にかけて死者たちが帰ってくる日で、村の墓場で死者たちと一緒に歌ったりオドたりして、夜と昼を楽しく過ごします。何日も前からこの日のためにごちそうを作ったりして準備をします。一緒に過ごす死者の範囲は、「自分の死者たち」の数よりも一人分多く、余分に作っておくのださうです。どの生者にも呼び出されない孤独な死者たちもいるので、そういう死者たちがうろろしている、どこかの家族に呼び出されている死者の一人が、「おれと一緒に来いよ」といって誘うのです。そういうプラスワンの死者が来たときに、ごちそうの数に余裕がないとさびしい思いをさせるので、必ず余分に作っておくのです。これはもちろんメキシコの、生者の社会の投影です。メキシコでは友人を二人誘うと、その友だちとかフィアンセとかを引き連れて右四人で来たりする。こうして友情が広がってゆく。この社会が「よそ者」にとつても魅力的なのは、こういう感覚から来るように思います。死者の日のごちそうの「余分の一人分」ということは、社会学にとつても究極の理想でもある。「開かれた共同体」、「自由な共同体」ということも関わる話で、たくさんのことを考えさせます。

* マックス・ウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の〈精神〉」という論文は、社会学の最も重要な古典のひとつです。長い題名なので社会学の学生は「プロ倫」と言っています。マックス・ウェーバーはこの論文で、近代社会を形作ってきた基本的な「精神」を説き明かしているのですが、そのカクシンにあたる典型例として紹介しているのが、ベンジャミン・フランクリン、アメリカの一〇〇ドル紙幣のシヨウゾウになつている人物の、「Time is money」(時は金なり)という生活信条です。少し引用してみます。「一日に自分の時間の中から一グロート銀貨に相当するだけの時間(それはおそらく数分間にすぎないだろう)を無為に過ごす者は、一年間には六ポンドを浪費するものであり、六ポンドを失うものは、一〇〇ポンドを使う権利を失うのである。五シリングの価値のある時間を無為に浪費するものは、五シリングを海に捨てるのと同じことである。五シリングを失うものは、これを生業に用いて回転させることによって得る一切の利益を失うものである。この利益は青年がそうとうの年配に達するまでには、巨大な金額にのぼることであろう。」時間を貨幣と同じように考えてこのように「使う」精神こそが資本主義社会、つまり「近代」の社会を形成してきたことを、ウェーバーはみごとに解き明かしています。

死者たちのための食事を何日もかけて準備し、一日をその墓場で過ごし、そのうえさらに、ゆかりもない死者のために余分の一人分までも用意するということは「Time is money」の精神からすれば、ムダの上にムダを重ねるようなものです。ちなみにもあまり知られていないことですが、ベンジャミン・フランクリンは、こういうアメリカの原住民(インディオたち)が、一人残らず絶滅してしまえばいいと、手紙の中で書いています。インディオが社会の近代化の中で、生活を合理化しようとすれば、真つ先に削り落とされるのは、この「余分の一人分」でしょう。けれどもそのときこの社会からは、何かある本質的なものが、削り落とされることになるだろう。人生は何かを失うことになるだろう。削ぎ落とされたものは、フランクリンの貨幣換算のように計算してみることできないし、目にも見えない言葉にもほとんどならないものです。

社会の「近代化」ということの中で、人間は、実に多くのものを獲得し、また、実に多くのものを失いました。獲得したものは、計算できるもの、目に見えるもの、言葉によって明確に表現できるものが多い。しかしソウシツしたものは、計算できないもの、目に見えないもの、言葉によって表現することのできないものが多い。「中略」

ぼくたちは今「前近代」に戻るのではなく、「近代」にとどまるのでもなく、近代の後の、新しい社会の形を構想し、実現してゆくほかはないところに立っている。積極的な言い方をすれば、人間がこれまでに形成してきたさまざまな社会の形、「生き方」の形を自在に見る*しながら、ほんとうによい社会の形、「生き方」の形というものを構想し、実現することのできるところに立っている。

この時に大切なことは、異世界を理想化することではなく、^⑧「両方を見る」ということ、方法としての異世界を知ることによって、現代社会の「自明性の檻」の外部に出てみるということです。さまざまな社会を知る、ということは、さまざまな生き方を知ることによって、「自分でできることはこれだけ」と決めつけてしまう前に、人間の可能性を知る、ということ、人間の作る社会の可能性について、想像力の翼を獲得する、ということです。

(見田宗介『社会学入門―人間と社会の未来』)

- *右四人で：四人一緒に。
- *マックス・ウェーバー：ドイツの政治学者、社会学者、経済学者。
- *ベンジャミン・フランクリン：アメリカ合衆国の政治家、外交官、物理学者。アメリカ独立に多大な貢献をした人物。
- *グロート／ポンド／シリング：イギリスの貨幣の単位。ポンドのみ現在も使用されている。
- *見はるかす：はるかに見渡す。見晴らす。

問一 ――線部1～8のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ――線部①「異国で日本のニュースを見る」ことによって、筆者はどのようなことに気づきましたか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 日本で起きる出来事は、異国に住む人にはばかげて見えるということ。
- イ 日本の習慣が、異国のの人にとっては受け入れられないものだということ。
- ウ 日本では当然であることが、異国の人には異様なものに見えるということ。
- エ 慣れ親しんだ日本の文化が、世界基準で見ると異質であったということ。
- オ 狂気じみた日本の習慣を受け入れる自分の感覚を、正さねばならないこと。

問三 ――線部②「時計を見上げながら（近代）を育んできた」とはどういうことですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 規則正しい生活のリズムを確立することを目的として、近代社会が均一化されてきたということ。
- イ 時間の長さに対する感覚を身につけて、微妙なずれも認めない近代社会を目指してきたということ。
- ウ 街の象徴である大時計が市民の所属意識を強め、他の都市よりも早く近代社会が成立してきたということ。
- エ 時間に厳しくなければ他者との関係性は保てないという、近代社会の常識を作り上げてきたということ。
- オ 街の中心に時計を置き、市民に時間という概念を持たせて、近代社会の発展を実現してきたということ。

問四 ――線部③「それでもこの時代の時計は、一本針だった」とはどういうことかを、次のように説明しました。1・2にあてはまることばを、1 は二字の熟語、2 は五字以内でそれぞれ答えなさい。

時間の 1 を受けながらも、「分」という単位まで意識しなければならぬ 2 生活ではなかったということ。

問五 ――線部④「NHKはのんびりしていらやましい。民放は秒単位の世界だけど、NHKは分単位だから」ということばにはどのような思いが含まれると筆者は考えていますか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 秒刻みで動き、効率の良さを求められる民放と比較して、分刻みで良いとされるNHKのゆとりに対するうらやましさと憧れがある。
- イ 秒単位の狂いも許されないという重圧を感じるとともに、時代の先端を走っている民放の仕事に対する自信と誇りがある。
- ウ 時代の先端を走っている自信はあるが、落ち着いて仕事ができるNHKに比べて、丁寧な仕事できていないというあせりがある。
- エ 忙しいことが仕事ができる証であることとされる社会では、いくらNHKであっても時代に取り残されることになるという心配がある。
- オ NHKに比べると、秒単位で動かなくては仕事成り立たない民放ではあるが、だからこそ負けられないという意地がある。

問六 メキシコの現代社会について何人かの生徒が話をしています。1～3 にあてはまることばを、本文からそれぞれ十字以内で探し、書き抜きなさい。(句読点、記号も字数に数えます。)

- 生徒A 1 のために作られる「余分の一人分」という考え方、私はいいなと思う。
- 生徒B そうだね、思いやりがあるよね。2 で、メキシコの現代社会では、友だちのところに、友だちの知らない人を連れていくことがあるんだね。
- 生徒C これには驚いたよ。日本では何だか失礼になるようだけれど、3 と考えるのはいいね。
- 生徒A そう思う。大らかな、温かい社会なんだなあと感じるわ。
- 生徒B まさに、「開かれた共同体」ってことだね。

問七 — 線部⑤「近代社会を形作ってきた基本的な『精神』」とはどのような精神ですか。三十字以内で説明しなさい。

(句読点、記号も字数に数えます。)

問八 — 線部⑥「ムダの上にムダを重ねるようなものです」とありますが、なぜそのように言えるのですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 利益を得られないものに多くの時間を費やし、自分に関わりのない死者に対してまで意味のない労力をかけているから。
- イ 死者が戻ってくるなど現実的にはありえないことを考え、それを口実に何も生み出さない時間を過ごしているから。
- ウ 長い時間をかけて死者をもてなす準備をし、結局はただ生きていくものが楽しく時を過ごしているだけに過ぎないから。
- エ 利益を求めて努力をしても失敗することがあるのに、死者のためにという利益を度外視したことに力を注いでいるから。
- オ 一定の時間の中でできることの価値を考えずに、死者を待つという何の役にも立たないことに意義を見いだしているから。

問九 — 線部⑦「近代の後の、新しい社会の形を構想し、実現してゆくほかはない」とありますが、筆者は、なぜ「新しい社会」を作り出す必要があると述べているのですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 精神をすり減らして効率の良さを求めてきた近代から、抜け出したいと考えているから。
- イ 獲得したのも失ったものも多い近代から、前進しなければならぬと考えているから。
- ウ 合理的なことに価値を求めてきた近代が、間違った方向に進んでいると考えているから。
- エ 価値の基準をすべて貨幣の価値に置き換えた近代が、崩壊の危機を迎えていると感じているから。
- オ 大切なものを捨てても貨幣を手に入れてきた近代が、優しさを失っていると感じているから。

問十 — 線部⑧「両方を見る」とありますが、「両方」が指すものとしてあてはまらないものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目に見えるものと見えないもの。
- イ 自国のあり方と他国のあり方。
- ウ 近代の人々の生き方と近代の人々の生き方。
- エ 計算できるものとできないもの。
- オ 近代で形成したものと今から形成するもの。

問十一 本文の内容に合うものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自国から離れて理想とする世界に学びに行くことで、これから作るべき社会の基盤を手に入れられる。
- イ 個人の損得を常に考える生き方は捨てて、心豊かに生きる生活を取り戻すことが大切である。
- ウ 自分が生きる世界の慣習にとらわれずに未知の世界に触れ、人間の可能性を知ることが必要である。
- エ 異世界に触れることで自国の改善点がわかるので、これからは進んで異国へ出かけるほうがよい。
- オ 人間にできることを限定せずに、合理的精神のもとに可能性を広げることが今後の社会における理想である。

1	カ
2	セイミツ
3	ケンマ
4	ガマン
5	シット
6	ヤツカイ

問二

A

B

C

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

1

2

問十

問十一

問一

7	シヨウゾウ	1	ボウドウ
8	ソウシツ	2	キカイ
		3	ワクグ
		4	チメイテキ
		5	オド
		6	カクシン

問二

問三

問四

1

2

問六

1

2

3

問五

問七

問八

問九

問十

問十一

受験番号
得点

1	カ
2	セイミツ
3	ケンマ
4	ガマン
5	シット
6	ヤツカイ

問二 A
ウ
B
イ
C
ア
問三
ウ

人	間	離	れ	し	た	と	い	う	大
げ	さ	な	表	現	で	、	自	分	を
評	価	し	た	こ	と	が	お	か	し
か	っ	た	か	ら	。				

真	似	を	し	て	始	め	た	模	型
作	り	が	認	め	ら	れ	て	、	将
来	の	仕	事	と	し	ら	て	考	え
ま	で	に	な	っ	た	か	ら	。	

問四
ア
エ
問七
エ
問八
エ
問九 1
愛情
2
意
図
問十
イ
問十一
オ

1	ボウドウ
2	キカイ
3	ワクグ
4	チメイテキ
5	オド
6	カクシン

肖像	7 ショウゾウ
暴動	8 ソウシツ
喪失	
奇怪	
枠組み	
致命的	
踊ったり	
核心	

問二
ウ
問三
オ

問四 1
制約

問六 1
孤独な死者たち

2
せわしない

2
生者の社会の投影

問五
イ

3
友情が広がってゆく

時	間	を	貨	幣	と	同	じ	よ	う
に	考	え	て	、	効	率	よ	く	、
使	う	ー	精	神	。				

問八
ア
問九
イ
問十
オ
問十一
ウ